

谷

三年 画数 7
筆順 ハハ谷
オン コク
クン たに

成り立ち



↓ハ ↓谷 ↓谷 ↓谷 ↓谷 ↓谷

下のほうがひろがっていて、上にいくにつれてせまくなる「谷」のいみをあらわした「谷」に、「入口」のいみの「口」をくわえてつくった字です。

みちがつくられなかった大むかしは、「谷」が人のとおりみちになっていて、人はそこを出入りしていききました。それで、「穴」と「口」とで「たに」をあらわしました。

「「渋谷」「金谷」等、「谷」のつく地名が多いが、「や」と読まれる。これは、「やと」「やつ」とも読まれ、「交通の要衝」の意味の語である。これも「谷」が交通上果たす役割の大きいことを証明するものである。う。」

使い方

▽むかしは、けわしい山をこえるより、まがりくねっていても谷間をつたっていくほうがらくでした。だから、人のすむいは谷川ぞいにつくられています。

熟語例

- ▽谷間（谷の間。谷のくぼんだところ）
- ▽谷川（谷間をながれる川。まがりくねっていて、ところどころに滝があります。）
- ▽谷底（谷の底。谷のいちばんくぼんだところ）
- ▽谷風（谷の風。谷底から上にむかってふき上げてくる風です。）
- ▽峡谷（峡は山と山に挟まれた谷のこと。りょうがわに山がせまっているけわしくふかい谷のことです。）
- ▽溪谷（溪は「谷川」のこと。谷川がながれている谷のこと。）
- ▽幽谷（幽はおくふかい山のこと。人ざととおくはなれた、しずかな山おくの谷。）
- ▽空谷（人気がないさびしい谷。）
- ▽空谷の聲音（空谷の足音。「おもいがけないよろこび」といういみにつかわれます。）

国

三年 画数 8
筆順 冂冂国 国 国
オン コク
クン くに

成り立ち



↓冂 ↓冂 ↓玉 ↓玉

「土地と、そこにすむ人と、それをおさめる人」があるものを「くに」といいます。人のすむ土地をあらわした「口」と、それをおさめる天子をいみする「玉」とで「くに」をあらわしました。

「「玉座」「玉体」など、「玉」は天子を象徴する字である。将棋にも「玉将」と「玉将」とある。国は國の略字であるが、口の中が「王」でなくて「玉」にしたことは興味深いことである。」

使い方

- ▽むかし、ある国にとってもりっぱな王さまがすんでいらつしやいました。王さまは、国民から、たいそう、そんけいされていました。
- ▽日本の国は、うみにかこまれていて、外国へいくのはうみをわたらないといけません。

熟語例

- ▽国民（国にすんでいる人。せいかくというと、その国の国籍をもっている人のことですが、その国にすんでいる人は、だいたいその国の国民といってよいでしょう。）
- ▽外国（よその国。わたしたちがすんでいる国を日本といいますが、日本いがいの国を、みんな外国といいますが、アメリカ、中国、インドなど、せかいには、たくさんのお国々があります。）
- ▽国交（国と国との交際。「おつきあい」のこと。「せんそうで国交がだんぜんした」などといいます。）
- ▽国際（国と国とのあいだから。また、国の交際。）
- ▽愛国心（国を愛する心。じぶんのうまれた国をたいせつにおもう心）